

日本の全てのがん患者が納得する治療を

受けられるようにするために

NPO法人
日本がん患者団体協議会(JCPC)事務局
〒371-0812
群馬県前橋市広瀬町3-2-5
TEL&FAX: 027-261-1202
E-mail: info@med-npo.com
URL: http://med-npo.com:8080/

J C P C NEWS

Japan Cancer Patients Conference news
No.18・2005.8.4 (不定期発行)

「がん患者大集会」第一回大会が大成功裏に閉幕

「がんを語る有志の会」「癌と共に生きる会」「癌治療薬早期認可を求める会」主催で、当会等が後援した「がん患者大集会」の第一回大会を5月28日に開催しました。

おかげさまで、1500人くらいの会場に3000人以上の参加希望が殺到。第2会場(大スクリーンでホールの様子を見る)、第3会場(テレビ画面で観る)の2カ所の別会場が急遽開設されました。のべで、2000人くらいの方にご参加いただけましたと思います。ありがとうございました。

大会の最後に、[アピール:「私たち患者主体のがん情報センターの早期確立を要望します」](#)(P.2)を採択



いたしました。

第二回大会も予定しておりますので、皆様のご協力をお願い致します。

<http://www.cancer-jp.com/>

《アピールを尾辻厚生労働大臣(右)に手渡し、ガッチリと握手を交わす三浦捷一・がんを語る有志の会会長兼当会理事(左)》

厚生労働省が省内に「がん対策推進本部」設置

当会を含む13のがん患者団体は、厚生労働省の『がん医療水準均てん化の推進に関する検討会』に対して、「.厚生労働省内にがん治療関連の本部を作り、情報・政策を一本化する」と要請して参りましたが、その結果、5月11日、同省9階に「がん対策推進本部」が設置されました。

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2005/05/h0511-3.html>

また5月25日には、民主党内に『がん治療の前進をめざす民主党議員懇談会』が設立され、6月9日には、公明党内に「がん対策PT(プロジェクトチーム)」が作られました。

http://www.komei.or.jp/news/daily/2005/0610_02.html

さらに、自民党内にも「がん対策に関する委員会」を正式に立ち上げることが決まったとのこと。

当会理事の佐藤均・癌と共に生きる会会長が逝去されました

大腸がんを患いつつも、日本のがん医療を良くするため、常に運動の先頭にたって活動されてこられた佐藤均・癌と共に生きる会会長が、6月27日に逝去されました。生前の佐藤理事のご活躍に感謝致すと同時に、ご冥福を謹んでお祈り申し上げます。

第1回がん患者大集会アピール

「私たち患者主体のがん情報センターの早期確立を要望します」

わが国の死亡原因の3分の1以上はがんによるものであり、今後も増加することが確実視されています。そのため、がんの治療は最大の克服すべき課題となっています。しかし日本のがんの治療においては、世界のトップレベルにある面と、先進諸国と比較して遅れている面が混在しています。その結果、世界で標準的な治療とされているがん治療が、疾患によっては日本では受けられず、がん患者が不利益を被っている現実があります。

また多くのがん患者は、がん治療に関する公平で十分な情報提供が受けられず、治療法の選択において混乱したり、判断が困難な現実と直面しております。

がん患者の約半数が治癒できる時代となっていますが、再発や転移を来した患者にとっては主治医から提示された治療法の他に有効な治療手段がない」との誤解から「がん難民」という言葉さえ生まれているのです。

この状況を改善するために、今日、NHK大阪ホールに私たち全国のがん患者、支援者たちが一堂に集まり、がん患者がよりよい医療を受けられるために日本のがん医療がどうあるべきかを話し合いました。

今日のつどいでは、日本のがん医療の現状を共通のものとし、がん患者自身が、がん医療改善の必要性とその具体策を検討できるような「ネットワークづくり」と全ての患者が同じように正確な情報を得ることができるような「仕組みづくり」をメインテーマとしました。

そして、がん医療改善を医療界や行政任せにしてきた反省から、がん医療の内容、がん医療専門従事者の育成、がん患者情報室などについて、私たち患者や家族が主体的に関わり、社会に提言していくことが何よりも必要な時期だと確信しました。

がん患者が正確な情報のもとに生命追求に対する自己決定権を行使できることは、すべてのがん患者が求めている「生きる希望」そのものです。そのために必要不可欠な**患者主体のがん情報センターの早期確立を私たちは要望します。**

このがん患者大集会が、来年再来年と引き継がれ、また全国津々浦々でがん患者とその家族ががん医療の改善に向けて話し合い、がんの種類を超えた患者自身の無数のネットワークが創られることを、集会参加者で確認し合い、本大集会が日本のがん医療の一大転換点になることを願い、集会アピールといたします。

2005年5月28日

第1回がん患者大集会参加者一同